騒音計・振動計ソフト使い方マニュアル

※注意※

本ソフトは Excel2007 以降のバージョンをサポートするものであり、それ以前の Excel バージョンについては、動作しない恐れがあります。また、将来 Excel のバージョンアップを含むマイクロソフト社が VBA の仕様を変更した場合、一部機能が使用出来なくなる恐れがありますので、ご注意ください。

実行するエクセルファイル名は絶対に変更しないでください。

株式会社アクティオ

EG 通信計測部

発行・改定日	担当者	内容
2017/12/18		初回作成
2024/3/27		使用機器に NL-43、NV-2018/2023 を追加

ご使用前に、計測に使用した機器の型式をご確認ください。

NL・VM系

騒音計：NL-21

CF カード

騒音計：NL-42

SD カード

騒音計：NL-43

SD カード

振動計：VM-53A

振動計：VM-55

NV系

環境表示計:NV-2009/2015/2018/2023

【目次】

ソフトの立ち上げ 5

1.「日報・グラフ作成（個別作成）」を開く 5

2.騒音・振動のデータを取り込む 6

★取り込むデータを間違ってソフトがフリーズした場合の対処方法について..... 7

3. 日報とグラフの作成方法..... 8

4. 一括読込ファイルの使用方法 11

5. 一括読込で作成したファイルを開いて、日報とグラフを作成します。 17

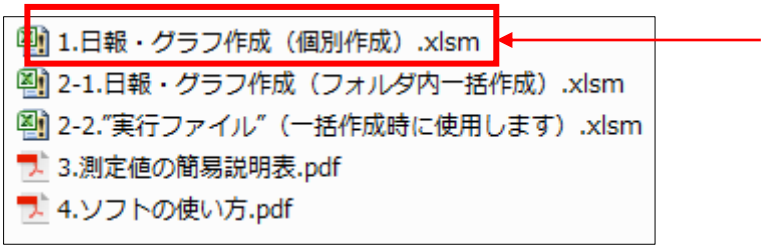
6.測定値の簡易説明..... 19

ソフトの立ち上げ

マイクロソフト Excel ファイル　騒音・振動の日報 Ver.1　を開きます。

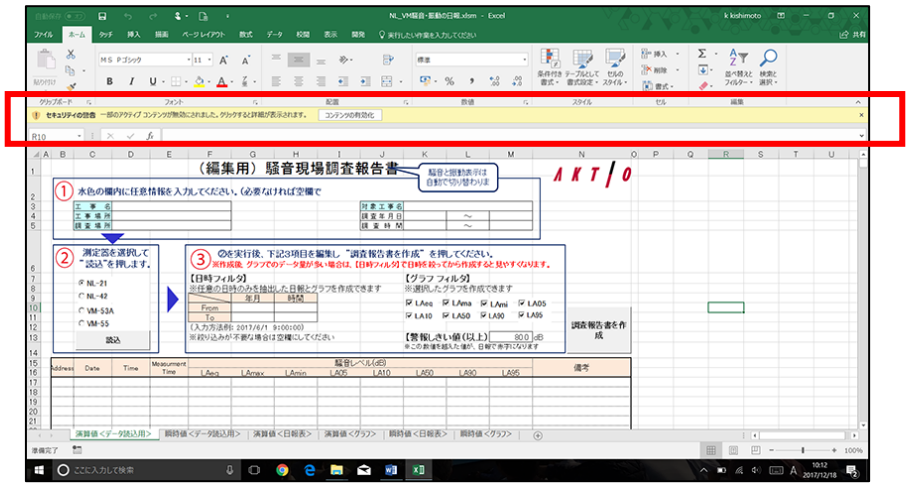
ファイルが圧縮されている場合は、適宜解凍してご使用ください。
※通常、圧縮ファイルの拡張子は.zip などです。

1.「1.日報・グラフ作成（個別作成）」を開きます。



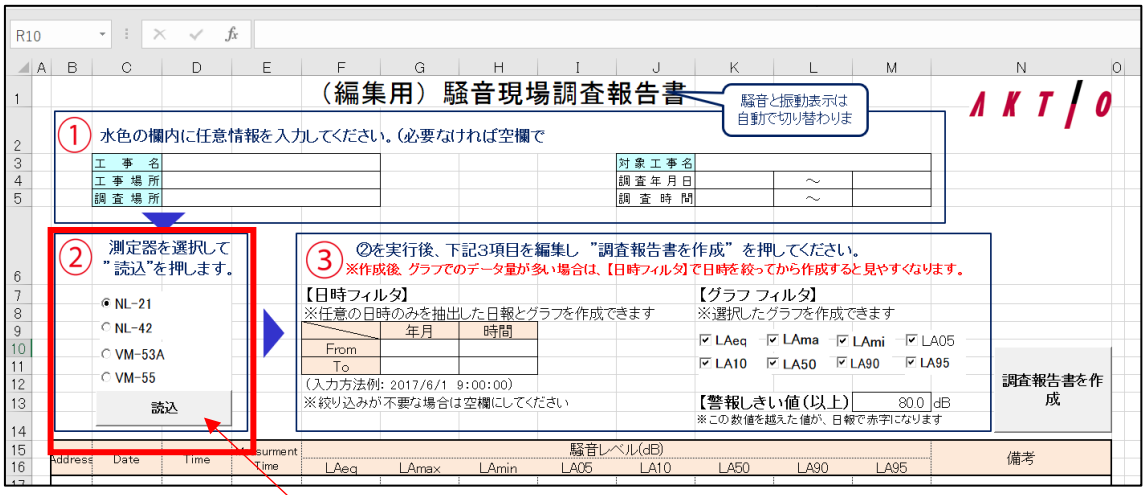
※注意（セキュリティの警告について）

エクセルファイルを開いた時にセキュリティの警告が出た場合、
コンテンツの有効化を押下して VBA マクロを有効にしてください。



2. 騒音・振動日報の作成方法

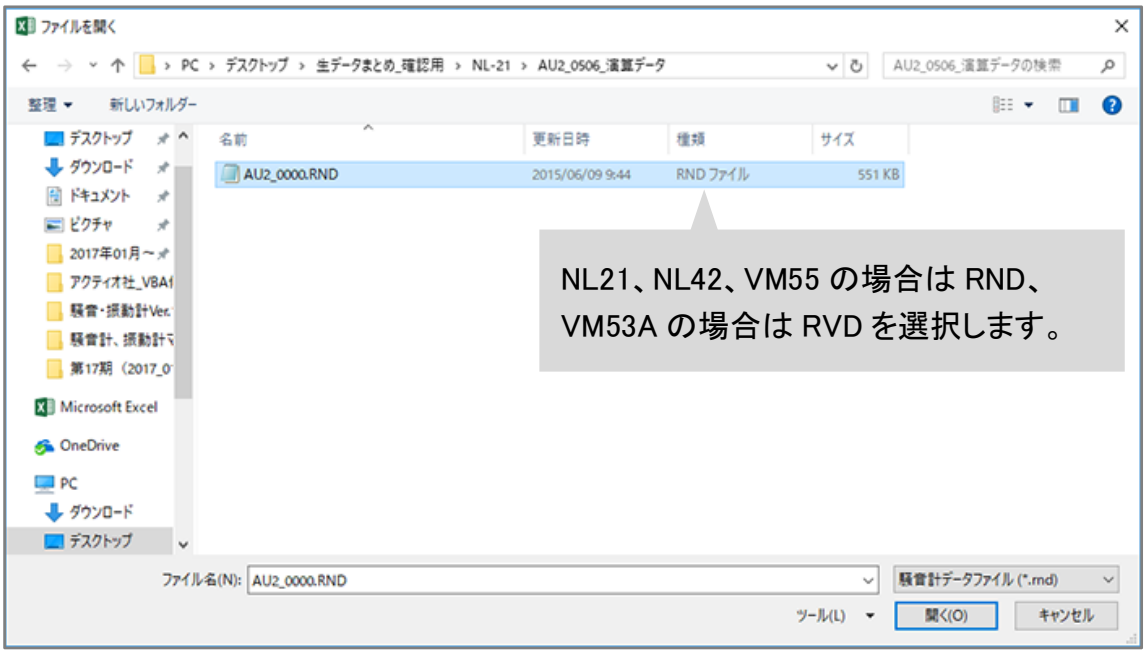
2－1.使用する機器（データを取り込む機器）の選択を行います。



※使用する機器の間違いに注意してください。

2－2.使用する機器を確認し、読み込みボタンを押下します。

2－3.選択した機器の取り込みたいファイルを選択します。



取り込むファイルが保存されているフォルダを確認してください。（次頁）

NL-21、VM-53A の場合

ストアモードをオート1、またはタイマーオート1で測定した際は、
瞬時値（データ上では「AU1_4 桁数字」）となります。
ストアモードをオート2、またはタイマーオート2で測定した際は
演算値（データ上では「AU2_4 桁数字」）となります。
※瞬時値・演算値の同時保存はできません。

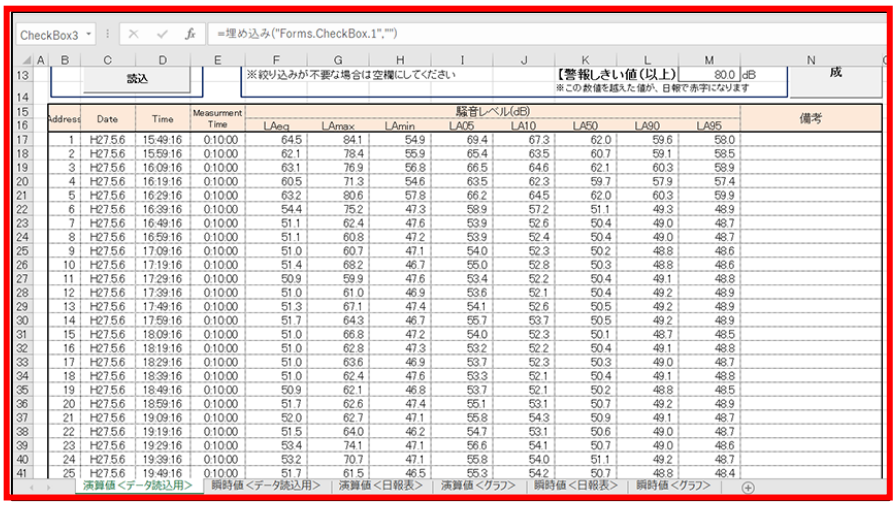
NL-42、NL-43、VM-55 の場合

AUTO_LEQ･･･演算値　／　AUTO_LV･･･瞬時値

NV2009/2015/2018/2023 の場合

Log から始まる CSV データを選択してください。

２－４.データが取り込まれます。



★取り込むデータを間違ってソフトがフリーズした場合の対処方法について

Ctrl ＋ break

または

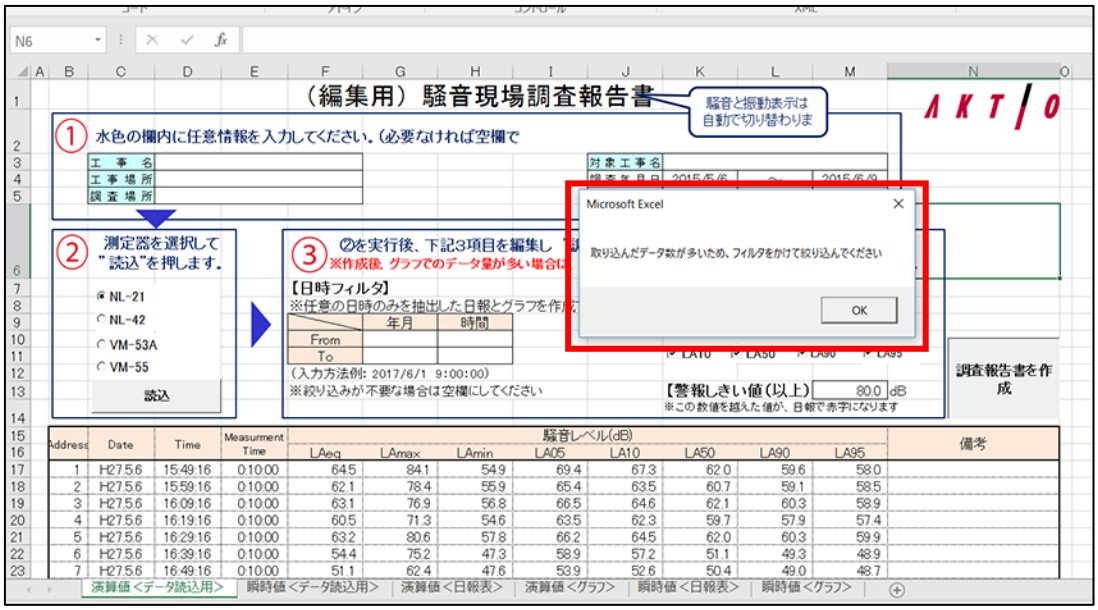
Ctrl ＋ Pause

上記のキーを処理が止まるまで長押ししてください。

3. 日報とグラフの作成方法

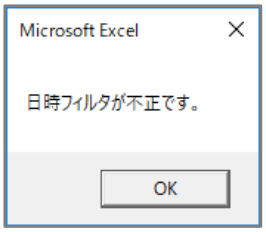
3－1.フィルタ＆グラフ反映を押下します。（取り込んだデータをそのまま利用する場合）
→全てのデータが反映されます。

3－2. 取り込むデータ数が多い場合（取り込んだデータが 150 行を超える場合）
→必ず日時フィルタで絞り込みを行ってください。



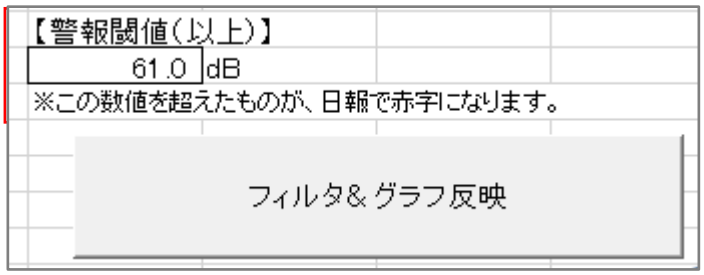
3－3. 取り込んだデータの日付と時間を決めて日報とグラフを作成する場合
→日時フィルタに入力した値の範囲で日報とグラフが作成されます。

【日時フィルタ】
西暦で入力してください。
例）2017/05/01



日付の入力値が間違っている場合、左記エラーメッセージが出ます。

【グラフ表示】
グラフにしたい値にチェックを入れてください。



【警報閾値(以上)】
日報で入力した値以上の数値が赤文字に変わります。

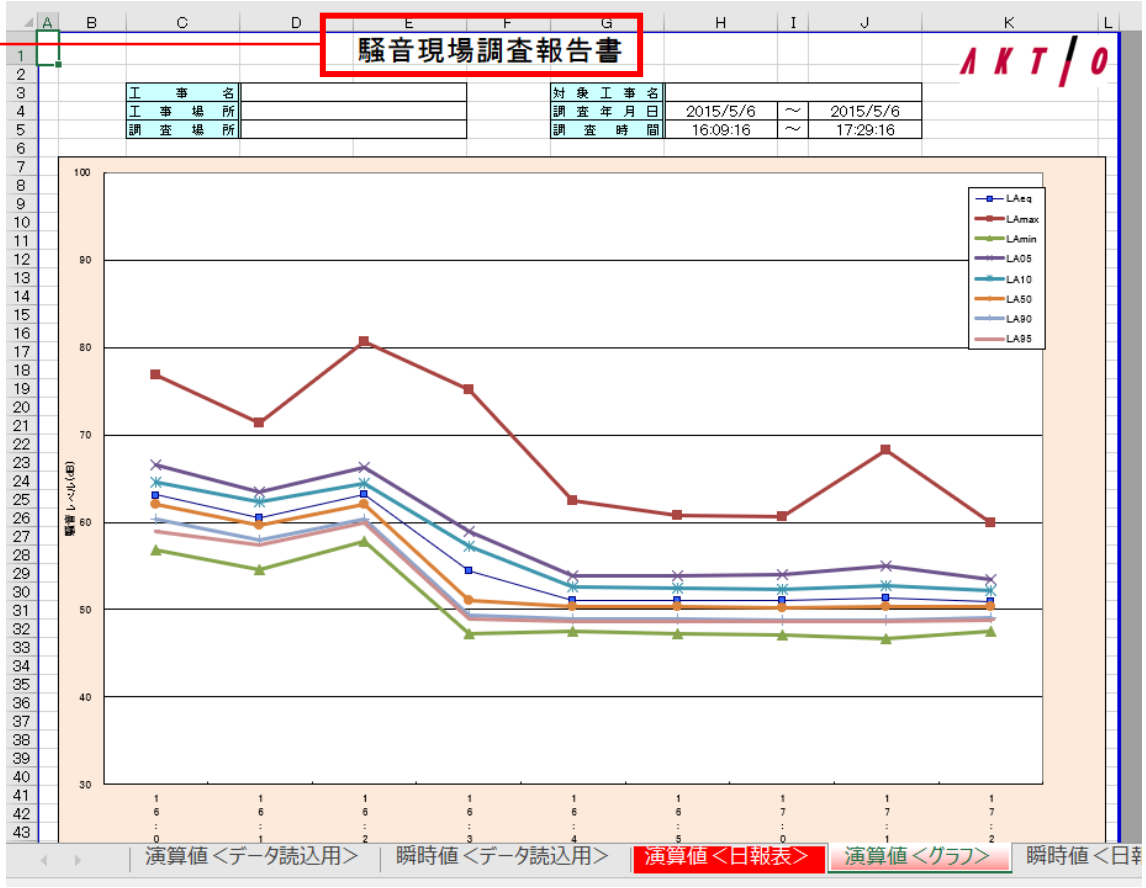
騒音現場調査報告書

		工事名								対象工事名							
		工事場所								調査年月日	2015/5/6	～	2015/5/6				
		調査場所								調査時間	16:09:16	～	17:29:16				
	Address	Date	Time	Measurment Time	騒音レベル(dB)									備考			
					LAeq	LAmax	LAmin	LA05	LA10	LA50	LA90	LA95					
	3	H27.5.6	16:09:16	0:10:00	63.1	76.9	56.8	66.5	64.6	62.1	60.3	58.9					
	4	H27.5.6	16:19:16	0:10:00	60.5	71.3	54.6	63.5	62.3	59.7	57.9	57.4					
	5	H27.5.6	16:29:16	0:10:00	63.2	80.6	57.8	66.2	64.5	62.0	60.3	59.9					
	6	H27.5.6	16:39:16	0:10:00	54.4	75.2	47.3	58.9	57.2	51.1	49.3	48.9					
	7	H27.5.6	16:49:16	0:10:00	51.1	62.4	47.6	53.9	52.6	50.4	49.0	48.7					
	8	H27.5.6	16:59:16	0:10:00	51.1	60.8	47.2	53.9	52.4	50.4	49.0	48.7					
	9	H27.5.6	17:09:16	0:10:00	51.0	60.7	47.1	54.0	52.3	50.2	48.8	48.6					
	10	H27.5.6	17:19:16	0:10:00	51.4	68.2	46.7	55.0	52.8	50.3	48.8	48.6					
	11	H27.5.6	17:29:16	0:10:00	50.9	59.9	47.6	53.4	52.2	50.4	49.1	48.8					

3－4. 作成した日報のシート見出し色が変わります。

例)演算値を処理した場合

3－5. 調査報告書のグラフ

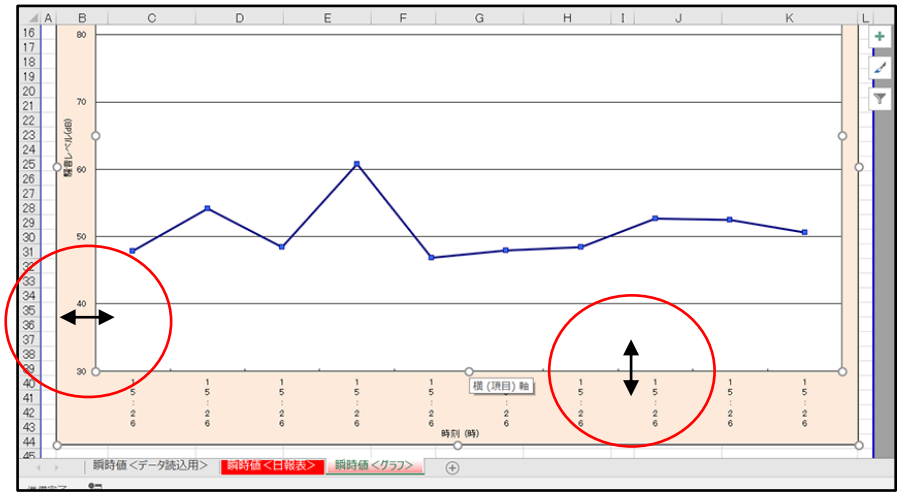


表題の変更について

振動と騒音の名称は機器を選択後、データを取り込んだ時点で自動的に変わります。

グラフの調整について

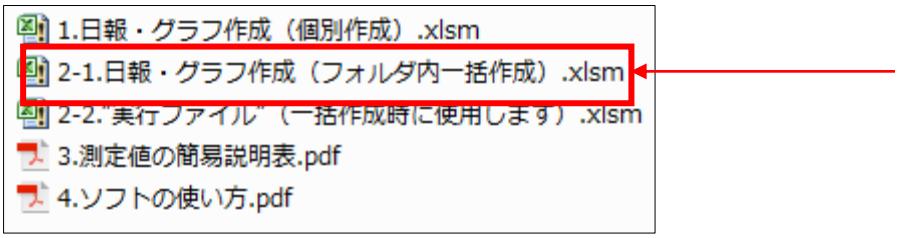
グラフの騒音レベルや時刻の文字が見づらい場合、グラフ内をクリックして調整してください。



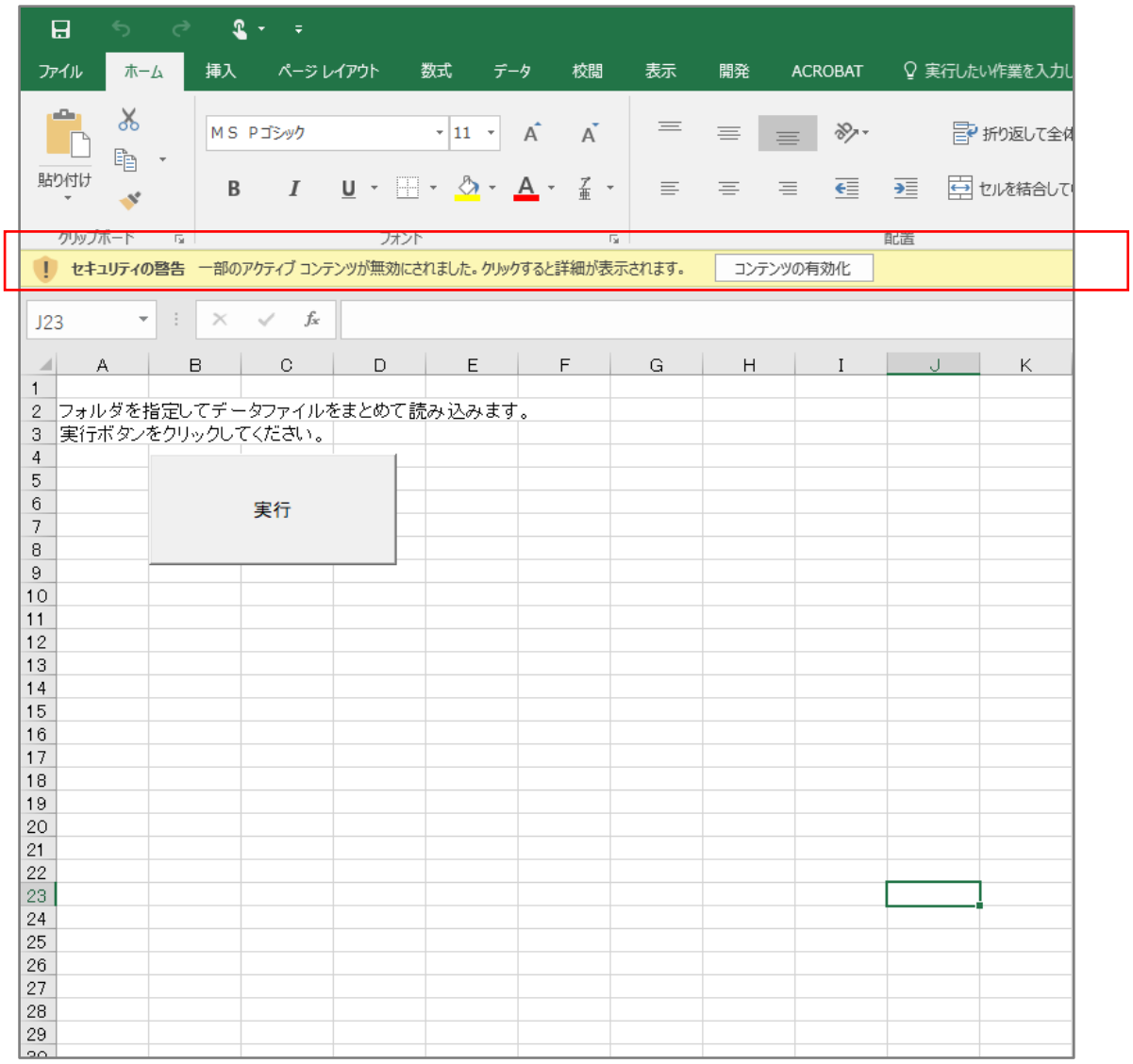
4. 一括読込ファイルの使用方法

4－1. ※一度に複数の出力ファイルを処理する場合に使用します。

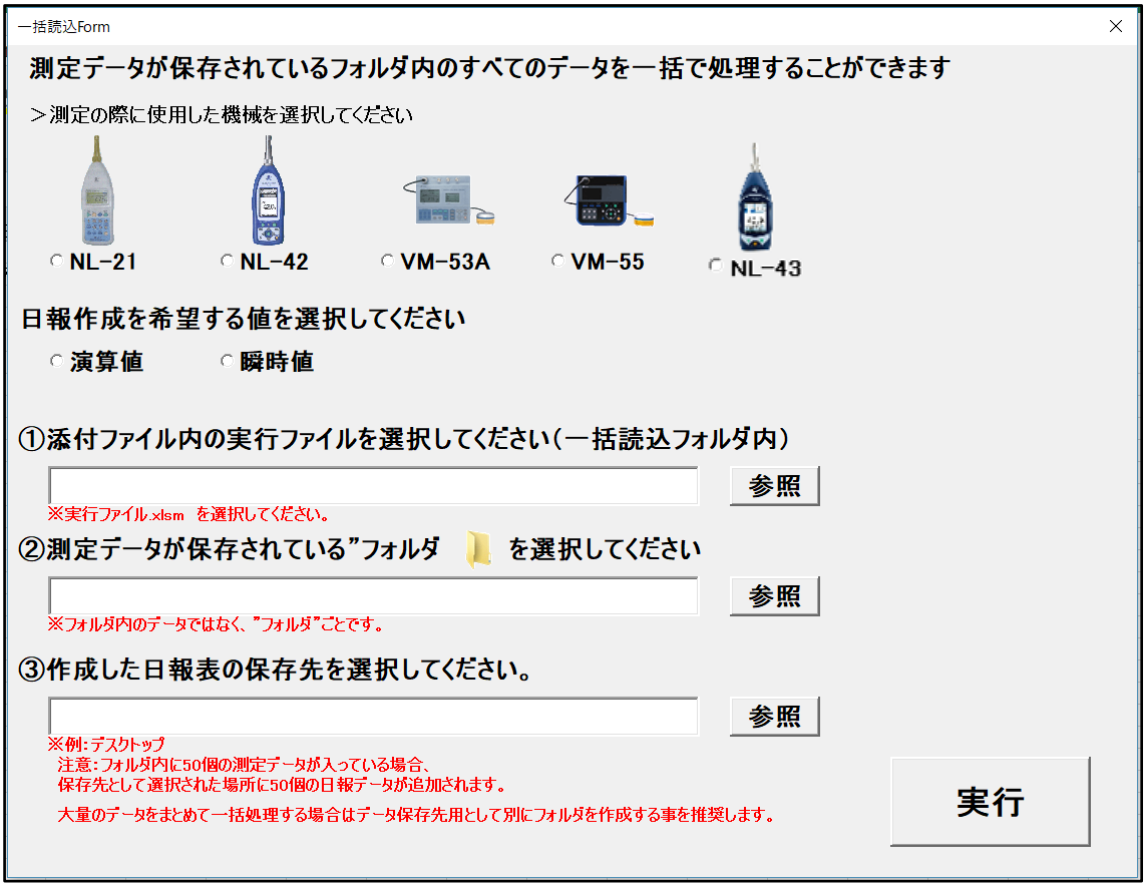
4－2.「2-1.日報グラフ作成（フォルダ内一括作成）.xlsm ファイルを開きます。



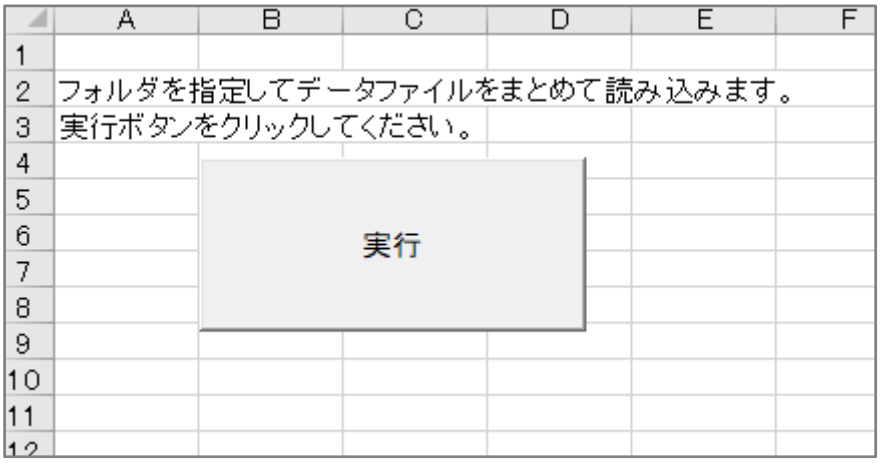
コンテンツの有効化を押下します。



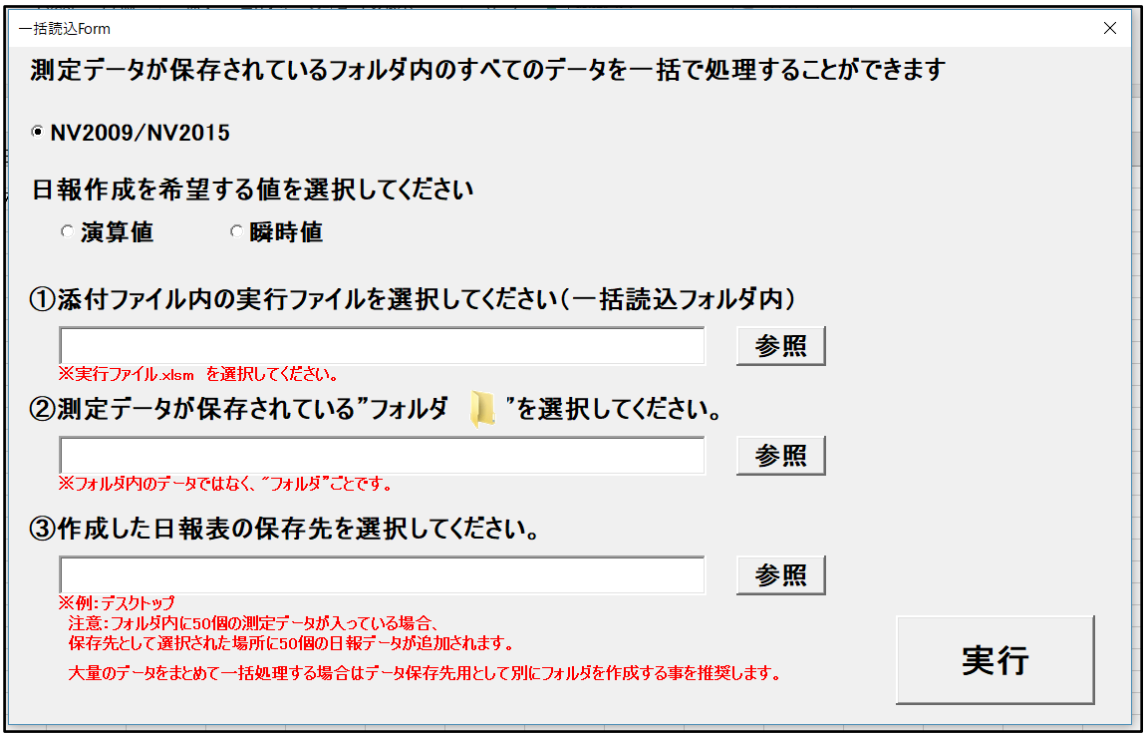
■NL･VM系　の場合



※ファイル一括読込フォームが立ち上がらない場合は実行ボタンを押下してください。



■NV系の場合



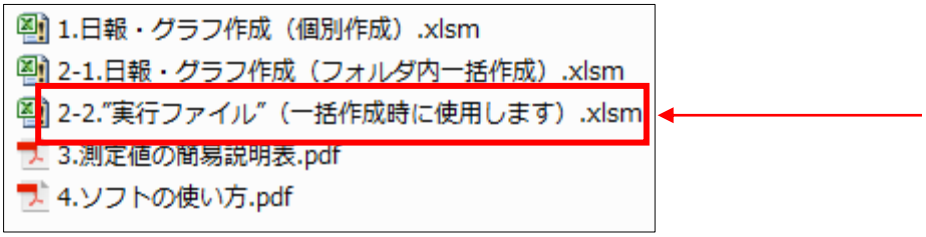
４－３.使用した機械を選択します。

４－４. 演算値または瞬時値どちらの日報を作成するのかを選択します。

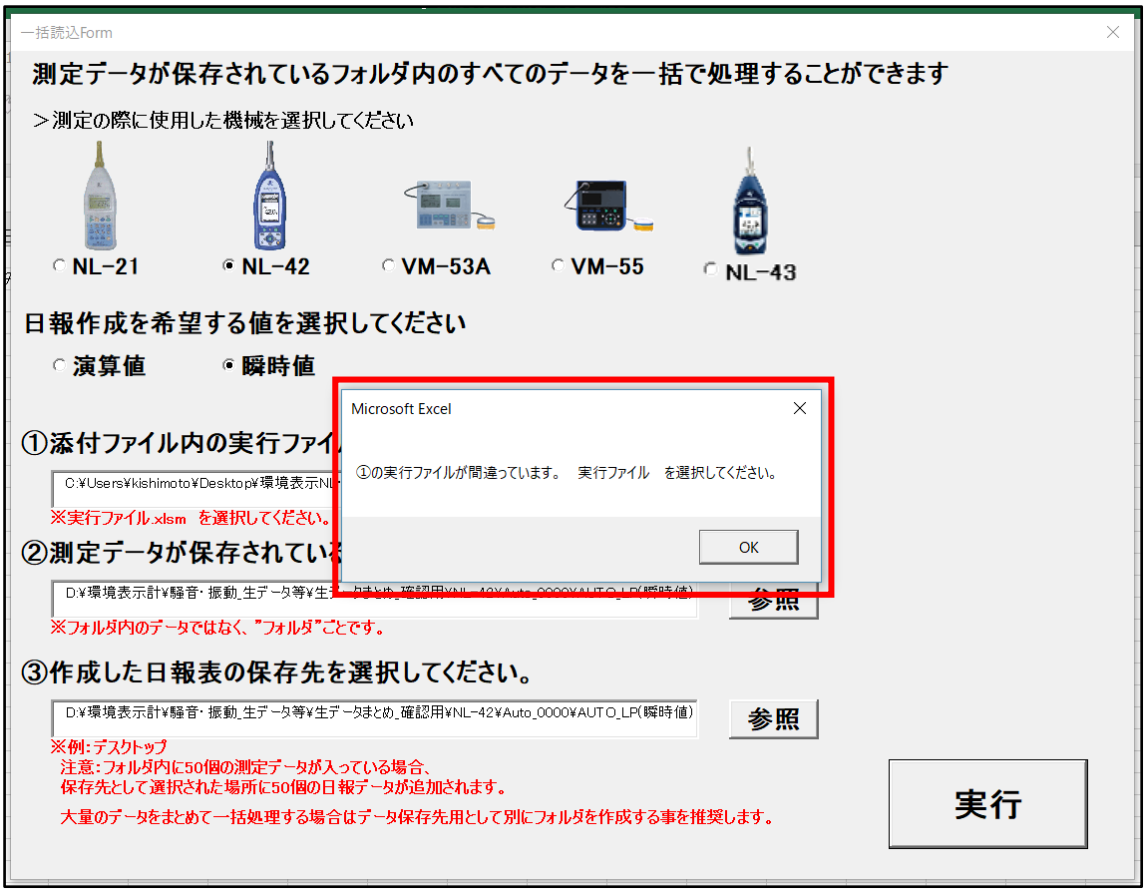
※NL-21・VM-53A の場合･･･オート 1 またはタイマーオート 1 で計測したデータが瞬時値

オート 2 またはタイマーオート 2 で計測したデータが演算値

4－5. ①は、ソフト内「2-2.実行ファイル」を選択します。



実行ファイル　以外を選択した場合、警告が表示されます。

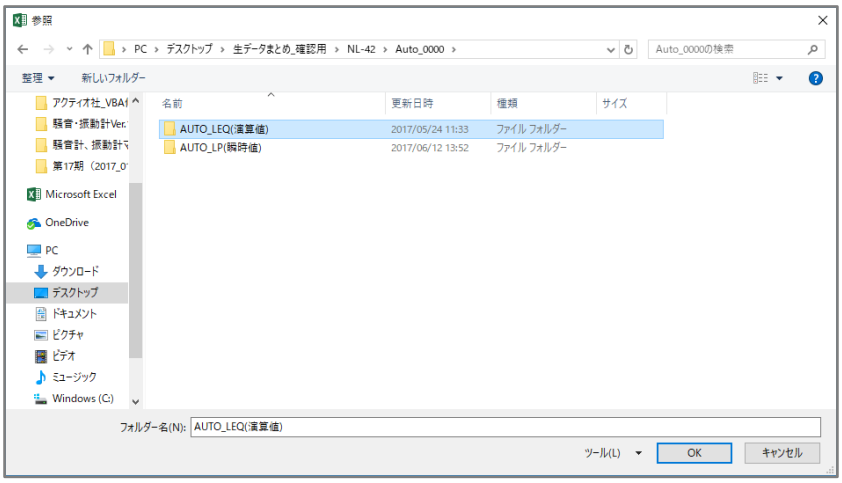


4－6. ②は、一括で取り込むファイルの保存先フォルダを選択します。

（フォルダ内の出力ファイル全てを読み込みます）

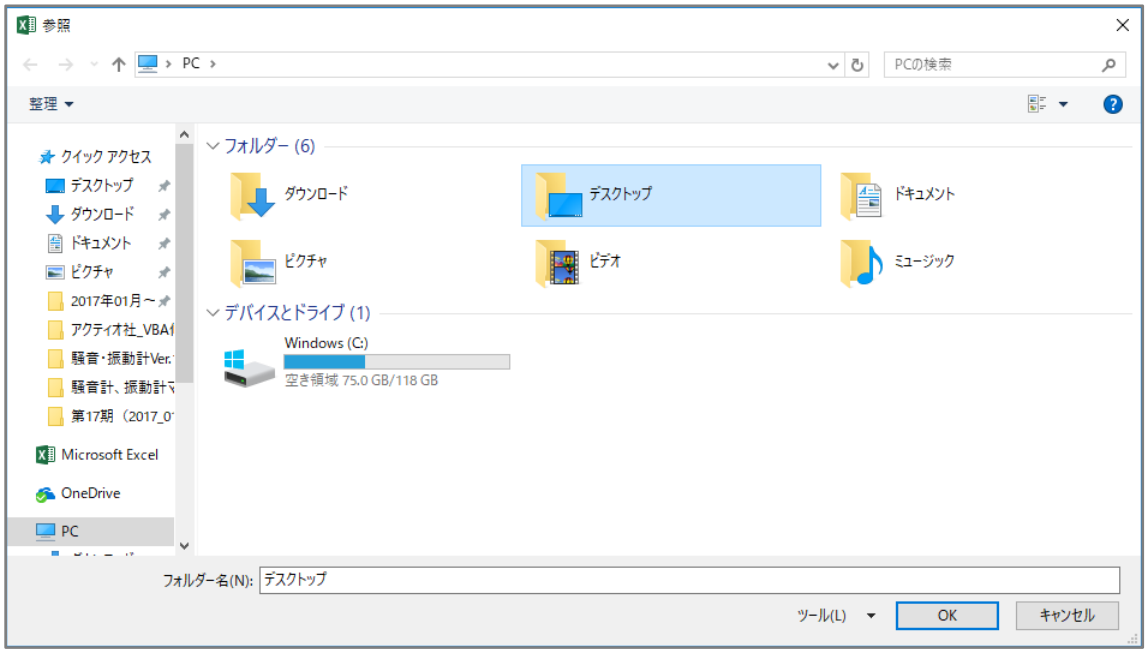
※選択するのは個別ファイルではなく、フォルダごとです。

例）NL-42 の演算値フォルダを選択

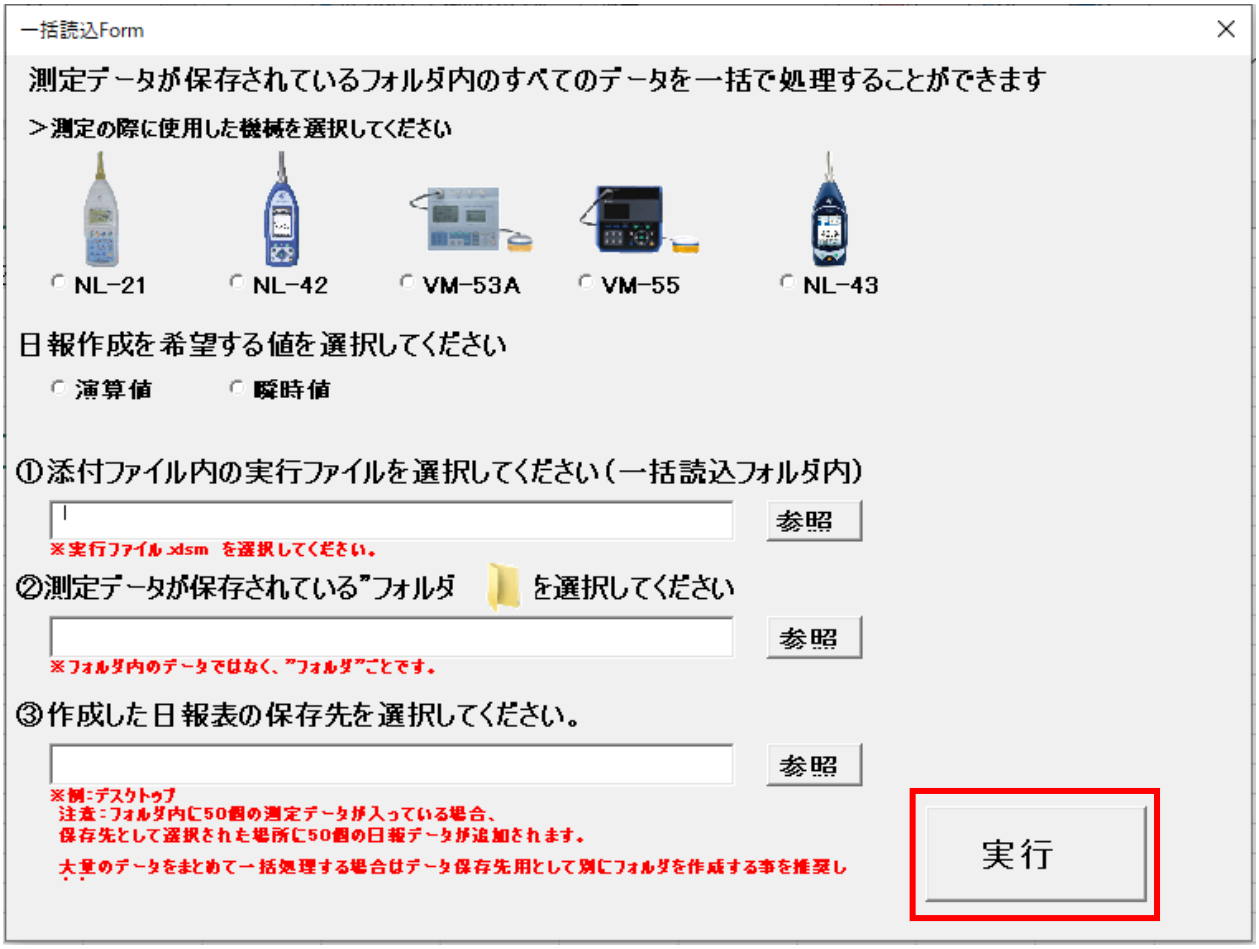


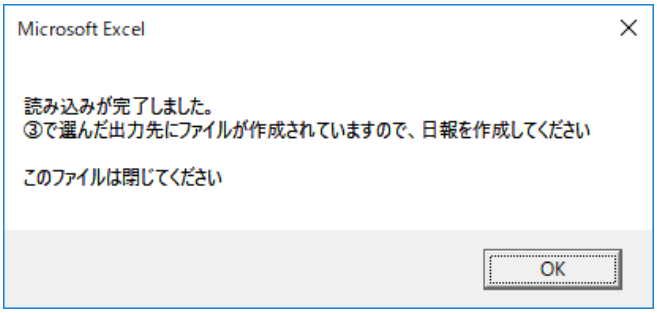
4－7. ③は、書き出し先フォルダを選択します（ファイルを保存したい場所を選択します）。

例）デスクトップに保存する場合



４－８. 準備が完了したら、実行ボタンを押します。





４－９.一括読込ファイルを閉じます。（③で指定した場所に保存されます）

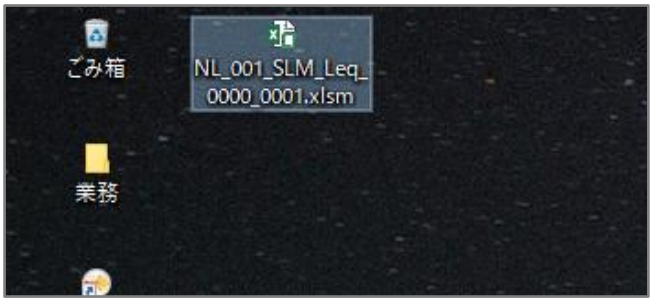
※一括処理は、フォルダ内の１ファイルずつ処理していきます。

お使いの PC のスペック（性能）によっては、処理ができない場合がございますので、

その場合はお問合せください。

5．一括読込で作成したファイルを開いて、日報とグラフを作成します。

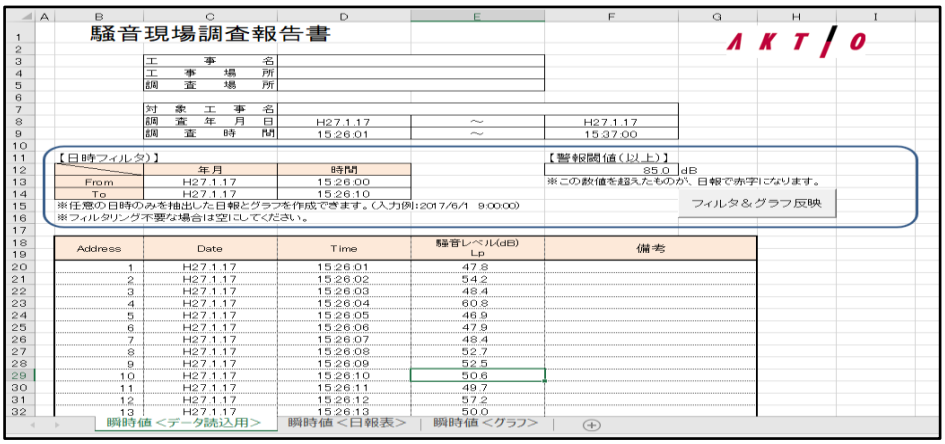
作成方法とフィルタのかけ方は個別の場合（7 ページ）と同じです。



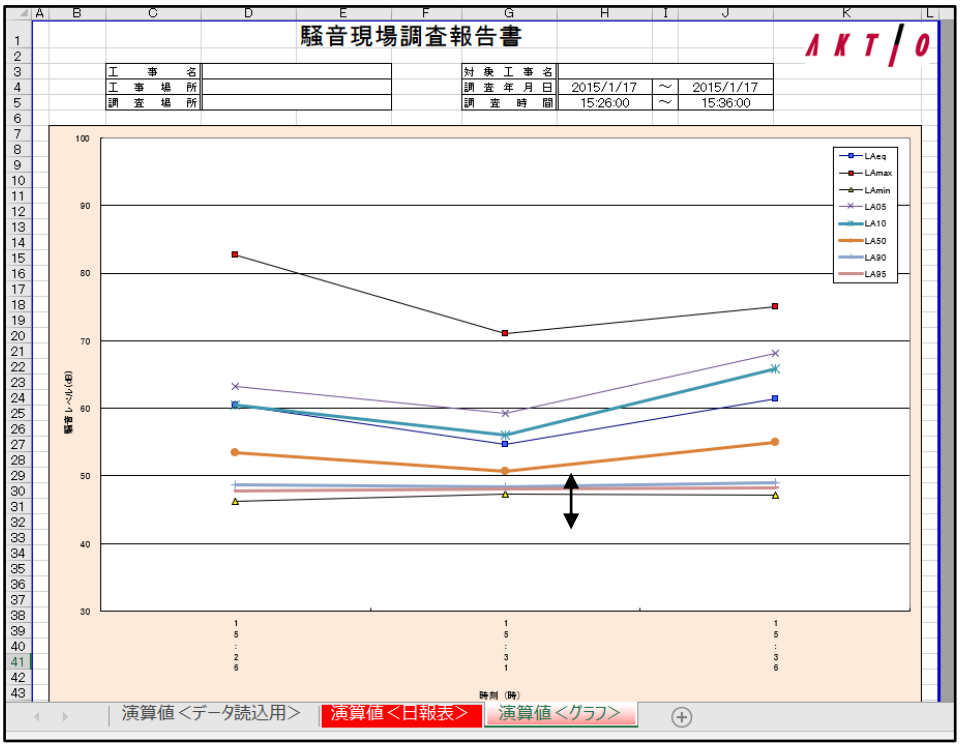
5－1．ファイルを開き、日報とグラフの作成を行います。

■演算値の場合

■瞬時値の場合

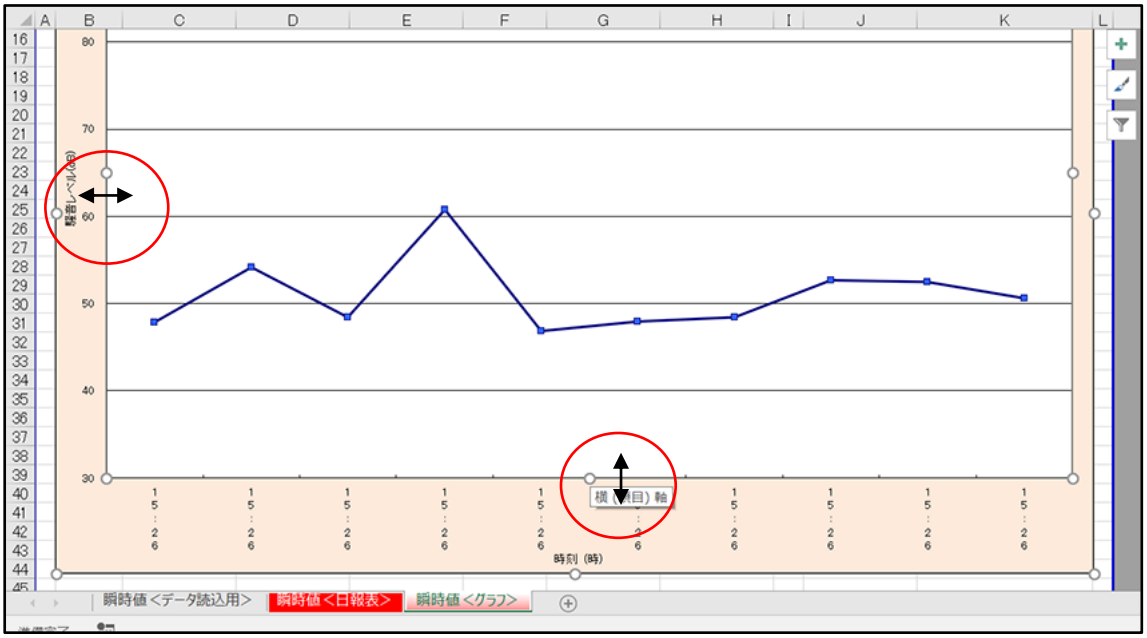


５－２．日報とグラフを作成します。



グラフの調整について

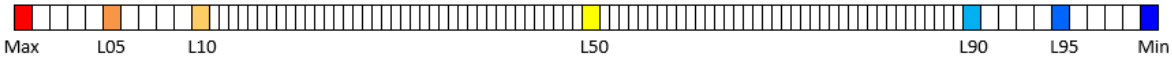
グラフの騒音レベルや時刻の文字が見づらい場合、グラフ内をクリックして調整してください。



6.測定値の簡易説明

表記	呼び名	簡易説明
LA(V) eq	等価騒音(振動)レベル	測定時間内の音(振動)のエネルギーを平均化した値(平均値)
LA(V) Max	最大値	時間設定した時に測定した値の最大値
LA(V) Min	最小値	時間設定した時に測定した値の最小値
LA(V) 5	5%時間率 騒音(振動)レベル	時間設定した時に測定した値から高い方の5%を除外したあとの最大値 90%レンジの上端値※
LA(V) 10	10%時間率 騒音(振動)レベル	時間設定した時に測定した値から高い方の10%を除外したあとの最大値 80%レンジの上端値※
LA(V) 50	50%時間率 騒音(振動)レベル	全測定値を大小順に並べたとき、全個数の 50%目の値 中央値とも呼ばれます (L50≠Leq)
LA(V) 90	90%時間率 騒音(振動)レベル	時間設定した時に測定した値から低い方の10%を除外したあとの最小値 80%レンジの下端値※
LA(V) 95	95%時間率 騒音(振動)レベル	時間設定した時に測定した値から低い方の5%を除外したあとの最小値 90%レンジの下端値※

※90%レンジとは 測定値の高い方と低い方の5%を除いた中央90%の測定値の幅 を意味します。
※80%レンジとは 測定値の高い方と低い方の10%を除いた中央80%の測定値の幅 を意味します。



騒音は、LA5・LA95・LAeq が一般的な測定結果、
振動は、LV10・LV90・LVeq が一般的な測定結果として見られることが多いです。

AKT/O